

国産 SAF を使用した本邦航空会社によるフライトを実施しました

航空分野の気候変動対策の観点から、CO₂ 削減効果のある SAF (Sustainable Aviation Fuel: 持続可能な航空燃料) の活用が見込まれています。

今般、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) による SAF の製造技術に係る研究開発の一環として、本事業で製造した国産の SAF を従来のジェット燃料に混合して、令和3年6月17日の ANA 及び JAL の定期便でのフライトを実施しました。

今後とも、関係者、関係省庁一体となって、SAF の製造技術の確立やその後の普及促進等の課題に取り組んでまいります。

1. 背景

- ・ 経済産業省及び国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) では、「バイオジェット燃料生産技術開発事業」により SAF の技術開発に取り組んでおり、令和2年度における技術開発の成果として、三菱パワー株式会社、株式会社 JERA、東洋エンジニアリング株式会社及び株式会社 IHI が SAF を製造しました。
- ・ その SAF を、従来のジェット燃料に混合し、全日本空輸株式会社 (ANA) 及び日本航空株式会社 (JAL) が、令和3年6月17日に定期便によるフライトを実施しました。
- ・ 今回のプロジェクトは、経済産業省資源エネルギー庁及び国土交通省航空局が、将来的な SAF の導入に向けたサプライチェーンの確立、普及促進を見据え、SAF の製造者・利用者が一体となった取組を実施すべく、関係事業者と連携して企画を行ってきたものです。

2. フライトの概要

- | | |
|---------|--|
| (1) 日 時 | 令和3年6月17日(木)
JAL JL515 羽田発札幌行 12:30 発
ANA NH031 羽田発伊丹行 15:00 発 |
| (2) 場 所 | 東京国際空港(羽田空港、東京都大田区) |

(3) 使用する SAF^(※1)

航空会社	製造者	原料	燃料量 ^(※2)
JAL (羽田発札幌行の便では、約8.7klの燃料を使用)	IHI	藻類	SAF:938ℓ(11%) うち、ニート SAF:1ℓ(0.01%)
	三菱パワー、JERA、東洋エンジニアリング	木質バイオマス	SAF:2,195ℓ(25%) うち、ニート SAF:283ℓ(3%)
ANA (羽田発伊丹行の便では、約5.0klの燃料を使用)	IHI	藻類	SAF:988ℓ(20%) うち、ニート SAF:38ℓ(0.8%)

※1 SAFは、ニート SAFと混合用の化石由来のジェット燃料を混合したものを指す。

ニート SAFは、バイオマス原料等を基に製造されたジェット燃料であり、化石由来のジェット燃料に一定割合を混合した上で、航空機に搭載する必要がある。ニート SAFは、原料及び製造方法により、化石由来のジェット燃料と混合することが可能な量の上限が定められており、藻類(Annex7)は10%まで、木質バイオマス(Annex1)は50%まで混合することが可能。

製造された SAFは、いずれも SAFの国際規格である「ASTM D7566 及び D1655」への適合を確認。

※2 カッコ内の割合(%)は、使用した燃料全体のうち、SAF及びニート SAFが占める割合を示したものの。

(ご参考:各社プレスリリース URL)

- ・ 三菱パワー株式会社: <https://power.mhi.com/jp/news>
- ・ 東洋エンジニアリング株式会社: <https://www.toyo-eng.com/jp/ja/company/news/>
- ・ 株式会社 IHI: https://www.ihico.jp/ihico/all_news/
- ・ ANA: <https://www.anahd.co.jp/group/pr/202106/20210618.html>
- ・ JAL: <https://press.jal.co.jp/ja/release/202106/006098.html>
- ・ NEDO: https://www.nedo.go.jp/news/press/AA5_101442.html

問い合わせ先

<国土交通省に関する内容について>

航空局 航空戦略室 寺島・徳永

TEL:03-5253-8111(内線 49402・48173) 直通:03-5253-8722

<経済産業省に関する内容について>

経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部燃料政策企画室 市川・宮田

TEL(直通):03-3501-2773